

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自主・自律・貢献の精神を涵養し、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する。

1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、考えが異なる相手にも論理的に意見を主張し、共通の合意を見出すコミュニケーション能力を育成する。
2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する。
3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する。

2 中期的目標

1 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦

授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る

- (1) 池高型アクティブ・ラーニングの推進
- (2) ICT活用を含め、全教科で一層「わかる喜びが散りばめられた授業」を展開
- (3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成

ア 土曜講習や少人数展開授業の充実、着実な知識・技能の習得

イ 朝読書、総合的な学習の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成

ウ 自学自習力育成（自習習慣の確立）と自習環境の整備

* 学校教育自己診断において、授業の理解度・満足度ともに、2020年度までに85%をめざす（2017年度：理解度76%・満足度70%）

* 授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：2020年度までに3.0ポイント（満点4.0）をめざす（2017年度2.69ポイント）

2 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現

学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する

- (1) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム・大阪大学基礎セミナー）や社会人講話の推進
- (2) 進路情報の基礎となる全国模試の全学年・全員受験推進
- (3) 3年間の進路指導計画充実と、豊富な進路指導情報提供
- (4) 教職員が働き方改革に努め、教職員自らがいきいきと働く姿勢を生徒が感じ、「志」のある進路指導とともに活力溢れる人材育成を行う

* 学校教育自己診断における、進路関係2項目の平均肯定率：2020年度までに90%をめざす（2017年度平均88%）

* 3年生現役国公立大学合格者が、前年度より上昇することを目標とする（2017年度合格者18%）

3 総合的な「人間力」育成

- (1) 3年間の教育プログラムに基づく生徒育成
- (2) 学習と部活・行事を両立させる生徒育成
- (3) 朝読書の推進やビブリオバトル導入による読書習慣確立、図書館利用の促進
- (4) 教育相談体制充実
- (5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上

* 学校教育自己診断「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇を目標とする（2017年度53%）

* 2020年度までに月2冊以上読書する生徒（2年生）の比率の上昇をめざす（2017年度38%）

4 本校の安全安心基盤、広報体制充実

- (1) 本校独自の災害対策マニュアルの周知徹底
- (2) 老朽化した学校施設・設備の改善
- (3) 中学生生徒に向けた広報活動推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
二十一世紀型学力育成に挑戦	(1) 池高型アクティブ・ラーニング推進	(1) アクティブ・ラーニング推進 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進(アクティブ・ラーニング研究会発足) ② ディベート取組み推進 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善	① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」各3.1P以上 (前年度 各3.04, 3.07P) ② 4教科以上でディベート取組み ③ 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」の肯定率70%以上 (前年度67%)	
	(2) ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開	(2) ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開 ① ICT利用教員数増加、そのためのICT環境の整備改善。教材・情報共有化により教員の業務効率化を図る。 ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善注力。授業全般に生徒理解度を上げる。	① ICT活用教員目標70%以上 (前年度:62%) ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上 ④ 授業評価「知識・技能が身についた」3P以上の教員比率85%以上 (前年度80%) ・学校教育自己診断(生徒)肯定率「授業はよく理解できる」78%以上 (前年度76%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」75%以上 (前年度72%)	
	(3) 知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成。 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習・課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習実施 ② 英語少人数授業の充実による学力向上 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① スピーチコンテスト、ディベート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① チューター制度推進等、生徒の自習機会増加 自習室は平日夜間(放課後~19:30)土曜日(9:00~16:00)開室 ② 新入生対象(勉強方法)オリエンテーション実施。自学自習の方法を指導 ③ 家庭学習量調査、自己学習時間増加 ④ 夏期学習合宿(自主合宿)実施	ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習出席者目標:2年・3年各300名以上 ② センター試験英語平均点:73%以上 (前年度70%) イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。 ① 放課後の自習生徒数前年比+10% (前年度+36%) ② 授業アンケート:自学自習2.75P以上 (前年度2.69P) ③ 自主学習1日2時間以上の生徒数比率50%以上(前年度44%) ④ 自主合宿参加生徒数:30名以上(前年度15名)、及び学校施設を利用した新規の勉強合宿企画・開催	
「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) キャリアガイダンス充実	(1) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実施(特に生徒のロールモデルとなる社会人講話を拡大して実施) ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用 ③ 大阪大学基礎セミナー受講促進	① 社会人講話の充実 ② 大教大「教師の学び舎」に3名以上の教員を派遣(前年度2名) ③ 大阪大学基礎セミナー受講生徒5名以上(前年度0名)	
	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する。	① 1,2年各2回、3年4回全国模試受験 生徒受験率100%	
	(3) 進路指導充実	(3) 進路指導充実 ① 3年間の進路指導計画(MAP)策定と計画的な進路情報提供 ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	① 学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率:88%以上(前年度86%) ② 現役国公立合格者:学年の23%以上 (前年度18%)	

総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育（生徒育成）プログラム継続実施	(1) 3年間の教育（生徒育成）プログラム ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、特に自主自律を推進する施策を各分掌・学年で企画する。 ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント（登校指導期間、挨拶励行指導時期、通学マナー指導期間等）を設定、生活習慣や規律規範を確立させる。	① 「自主・自律・貢献」の生徒育成を図る具体策を各分掌・学年で1つ以上企画のうえ推進する。 ② 学校教育自己診断（生徒）「学校生活についての先生の指導は納得できる」：肯定率 75%以上（前年度 72%） 学校教育自己診断（教員）「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」：肯定率 85%以上（前年度 82%）	
	(2) 学習と部活・行事の両立	(2) 学習と部活・行事の両立 ① 自学自習プロジェクトチーム中心に学習・部活両立に向けた取組み推進 ② 部活の活性化、生徒の活躍推奨	① 学校教育自己診断（生徒）「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇（前年度 53%） ② 部活動加入率 90%以上（前年度 90%） 団体又は個人で近畿大会以上の出場を果たす	
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書推進、ビブリオバトル実施等により、生徒の読書意欲を高揚させる。 ② 図書室利用の推進、その為の図書館施設見直し	① 月間平均2冊以上読書する生徒比率 40%以上（前年度 36%） ② 図書室貸出冊数前年比 5%以上増加（前年度は+39%）	
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① 教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底。教育相談委員会を年間10回実施。	① 学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」75%以上（前年度 73%）	
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ① 従来のオーストラリア語学研修を継続し、1年生対象に国際理解教養講座を実施 ② LL教室や外国人講師との英会話、ランチミーティング等、英語4技能の能力向上に努める	① 語学研修生派遣人数目標 オーストラリア研修 30名（/1年9クラス）以上派遣（前年 31名/1年10クラス） ・語学研修実施後の生徒満足度（肯定率）：95%以上（前年度 100%） ② GTEC 平均得点目標 2年生 465点以上（前年度 456点）	
学校安全基盤・広報体制の充実	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ① 策定した生徒用災害対策マニュアルを活用し、避難訓練等による更なる周知徹底に努める。	① 学校教育自己診断（生徒）アンケート「災害に対して具体的な行動を知らされている」80%以上（前年度 76%）	
	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善 ① 学校施設に関する年間改善計画策定 ② 生徒（自治会）の協力による学校環境改善	① 改善計画の中に、HR教室の壁改修や台風で破損したクラブ部室の改善等を入れる。 ② 生徒自治会による学校環境改善提案と、それを受けた改善案検討	
	(3) 中学生徒にむけた広報活動推進	(3) 中学生徒向け広報活動推進 ① オープンスクールや学校見学会に生徒自治会関与を増やし、本校生徒による中学生向けPRを推進する。	① オープンスクールと学校見学会合計 1300名以上招致（前年度 1298名） ② 本校生徒が広報活動に一層参加できる企画立案・推進	